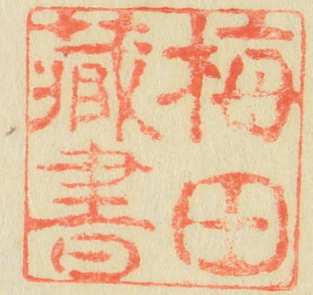
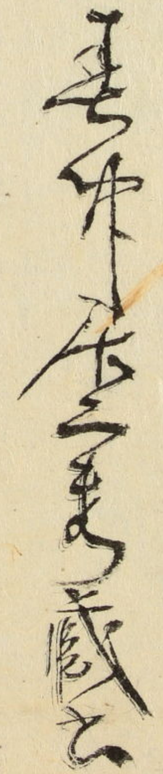
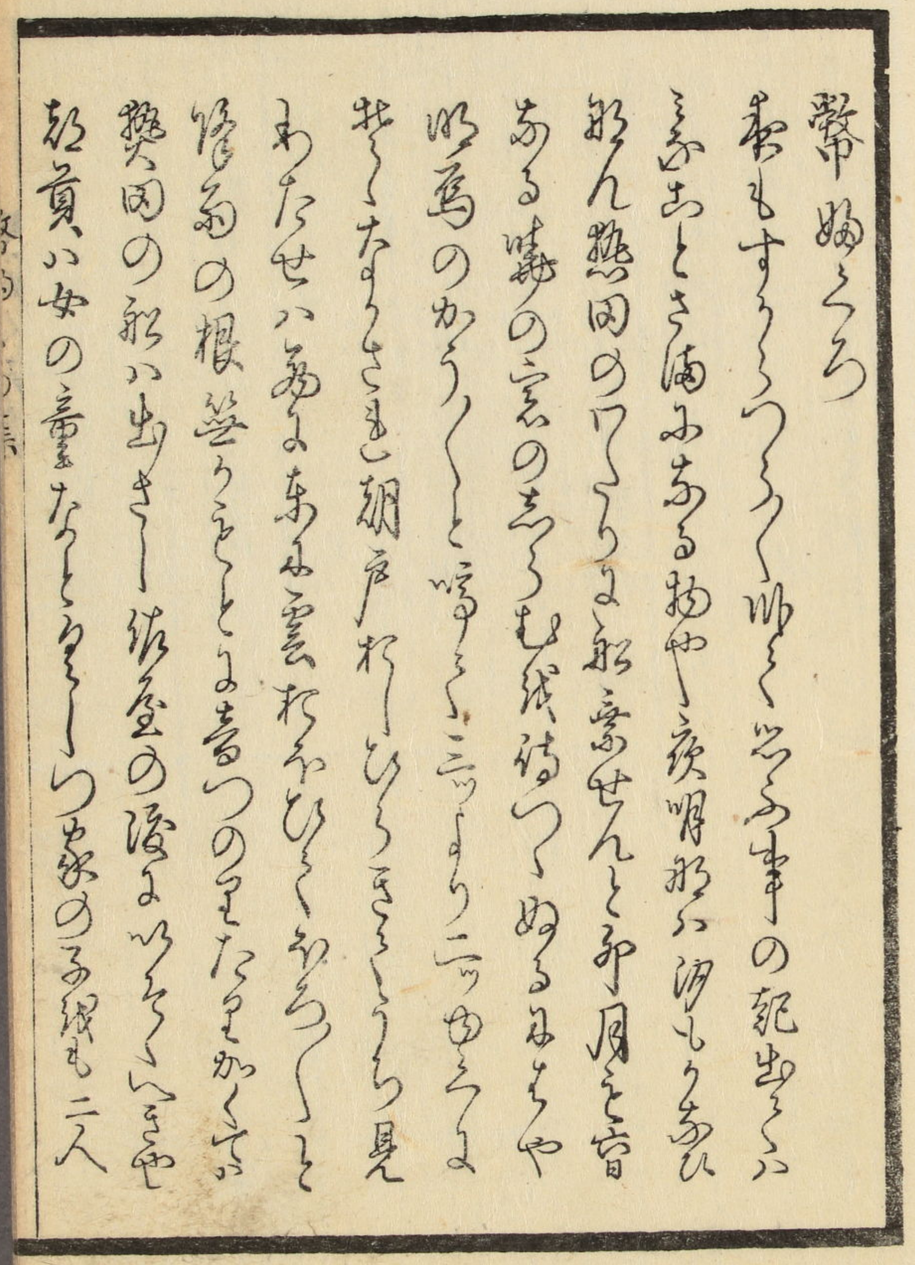
曉蓋七新集初編 下







幣賜ふ
事もすくなくつゝしみふかき事の記出ふ
ふるとさ酒ふるまひ夜明れハ酒もうるひ
新しく熟田の口うよ新嘗せんと和月を皆
ある儀の言のまゝも紙結つぬるはちや
明爲のかうくと嘗ふ二つより二つ出るよ
世くなるとさまゝ朝戸明ひらきうら見
まわたせハ為よ東ふ雲れかひくれかつて
隆爲の根笠うとゝ言つのたたもかくて
樊田の新ハ出きし紙金の酒よりくへを
新貢ハ女の童なりとゝ家の子紙も二人

こゝのひさこのたまはりふ
よりやうやくひまとりて　城の種の色紙書る
こゝろみたん　琵琶の古橋はわくりて妙音の
仏まゝ　まゝ風風山よ　こゝ　こゝ　こゝ
あひたる女の童ら幾よ法師のさ面の形紙よ
紙袋　さゝこ　こゝ世たるを杉のこ枝よ引うけて
枝よ切りうけたるま　杉ゝて　こゝいまのそこる面
紙やめくばりの清瓶よ　こゝ　まつ　こんさゝ
さこわるさゝ紙とふふるうゝろのたらむら
風北ゝよさ童の山根ゝ　こゝ　こゝ　たゝちよ
日のさゝ出るゝ松人いふ時ゝを　ひたる杉り

ゝこゝとゝ紙ひゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
人ゝこゝを杉をゝゝゝよゝ紙ふゝめゝゝゝ
やこゝこゝゝゝめゝ杉ん世ゝこゝ杉ゝゝゝ
杉ゝ杉ゝゝゝゝひゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
清高の川ゝたひ水鶏ふゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
宴り水色蕙公義の憤紙清ひゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
所のこ句ひゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
すゝ杉へる水蓑句ひ出たゝ墨の髭
ゝゝ山ゝ蓑よゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝわゝゝ出ゝゝわゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ蓑り杉ゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]山さとにもあるべき女ぞ獨養ひたる
[illegible]

三上山のこなたなる[illegible]　士朝

[illegible]山よりはてんとふふ人くふ新うるてこれ
のをはかへるまををもるるうつら
むと[illegible]つくひもよ新ものさてはのもや
[illegible]ひ[illegible]るよと[illegible]人の肩[illegible]
[illegible]
のをもへをのはかよのくをるとのはりを
[illegible]の男のうの夜[illegible]
[illegible]

[illegible]
つくをまかをを[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女の童ども[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

茂澄くる新稲かりふせるうま　凡董

雑国の苑荘稗より眺望しつゝ

みくりの原くゝ夕面めくる嵐山　曉蓋

夏の山ちゝ岑ゝ花くゝ霧よりり　宰馬

小倉山麓のゝ木やわくる波の灰　吉朔

相嶋くゝ漁火あくゝなる色あれ　仝

京り

落るなるやかやよ鹿の漁火　弘美

白巣巣より焚火ちゝろふ漁火の所　曉蓋

落柿舎ゝ

茅ゝ樗る人より尋くゝ訪ふ花蘆　吉朔

十ゝより四の月ゝ初のひろけたるふもとなる多ゝて

加茂より海くゝ結る人ゝ行くる雲のそとる

行くくくと初ゝひきくゝせくゝ伊東の

わくくせのふくくゝ生りひしめくる行ゝ

うくくえき思ふ寂人のとゝ落くる芦くゝ

より海くゝりぬ　吉朔

太宮人の神よすもゝふふ　白圖

國のゝより垂満百歌ゝ書のそくゝ

古くくゝやゝふ波藤川より文衣　仙史

律絡の声くゝ川いる計ゝ移むき

夏より林ゝすゝ立くゝ暑くゝふ　子来

[illegible]　羅城
[illegible]　何大
[illegible]　万岱
[illegible]　亜満

双泉寺西行庵懐旧

人[illegible]　十二六　大魯
[illegible]　士朗
[illegible]　雑蓋

門[illegible]　蕪村

寄物

夕[illegible]

蒲[illegible]　宰馬
[illegible]　大魯
十日[illegible]　士朗
一[illegible]　几董
[illegible]　紫笑
[illegible]　美角
[illegible]　曉蓋
[illegible]　支芝
[illegible]　嵐甲
[illegible]　紫笑
[illegible]　几董

[illegible]
[illegible]の佛のもけ[illegible]
いうもせれ世俗よ人[illegible]
[illegible]なる[illegible]
古[illegible]の[illegible]へ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
敵ちやう盜人[illegible]
吾[illegible]の[illegible]
[illegible]

宰馬
蕪村
古湖
大魯
嘯[illegible]
丈芝
嵐甲
宰馬
蕪村
古湖
大魯

閻の水面のもうもうあり[illegible]
[illegible]ムハせもつよ[illegible]する人やうん
[illegible]
供[illegible]の水[illegible]
[illegible]

南　の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

日新のことばもてさもてる面の中　紀美

甚だ[illegible]たる大魯法師よりきかれまして阿豊

丈芝を雑波よりもぬ宰馬をおのら尾張

の面よりはるばるとひ浜芝より三重二千枚浦よ

りまもなくいきかれ浦花よ海おひひ寄せ尾

波水は豆の紅葉を又紅うもも日さに

みやこの宮を姫りさうひえの宮根を一

月の宮よ宮ぬ結よ聰りたせ宮

鶴川のつを宮とうつきするなる

水をうを紅葉等手をませんすへも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢の方より西向うとてとまりて西の方にて
難波西伊勢の西より別れ出るなりめてと
中にて出て師の船の船頭の田子の浦うちなまり
伊勢にて行けく日にて行ふるなまに出ふ船ふ
海くさくさ中かくる事のまたちへしるる
なりは〳〵めはるに行ふ遊びまてみも船び
まなもいせの方より船をんやとてとと
船びつ〳〵浦船より船のまるる
はるまつ〳〵はるの船の船に船乗に
船の家〳〵より出船びに
海風のあるに行ふなりに　吉湖

夜の夜は夜中うちはらくに幣有ろ　船夫
女の言のまとまかせく絃音載場の無ひ音
海くさひなり
今日は難波の余波なりとて言津の夢
中もまに一眺十萬家山より一河の流常く支流百
十二流あり
むかし難水流海あて河源　船夫
海にくひ使あり舟をく船道のおりぢ
ひきちうく大津より出つ時より雷雨はつけ
暫時陰晴
船中や蒙夜良へ海る雲　吉湖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

結の巻より朝日ちるを田村川　素朗

鶴のこゑ聴かぬ夕べとなりにけり　紫笑

鶴の鼻吹うへせまいかい　紫笑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もゝ[illegible]嶺より吹入る雲雀のこ　紀貫之

[illegible]る面よりあまり[illegible]因樋の英新[illegible]　士朗

和[illegible]月をうきうきうの日[illegible]の宮所と

[illegible]て思ひつゝ清瀧川より[illegible]離して　遥[illegible]す

うけ波八重よりの和月の後[illegible]　士朗

[illegible]風心よ[illegible]する[illegible]　紀貫

安永甲午年五月

尾張　枇杷園士朗

路菓　都貞

佐渡日記

越出雲寄見水著

佐渡の国は、海より金ほり出すなりけり。
と聞くに、をのこ、をんなの、
するや朝明の海つらをうちうち
めきて、風のいとはげしくふきて、
いかりぬるものとて、
船初より風まちをするなれば、
まして社のるいかりをする人を、
数日聞きつけ時雨のつれなく
六月十二日なり

雲のいろのゆたかなる夏の月　嘯雲

うらくわのゆめのゆかりの二百三百のうらうらぬ
ゆくえ中の月ちかくなりて雲をこえくまなく
うけて風をよきうるはしうるはしく八月十五夜
の雲をあつめたる高き峯たゝ月をいのうつ
東をやまわくるゝ雁とりあつめ
つゆ玉とりて素秋をこえて岸
きえ毎ちりをいやうるき波がいつきたる
あくうちかさねてゆるる門帳よひくるを
やるわく嘉方山水の漆よ毎酒たる抑海
岳の法くゝ接西ゝ毎秋よせたりんまい

人ゝの歌玉ゝ歌ゝめ歌ゝの歌ゝて毎年乱
紀つけく相川の歴ゝくゝせるさまい
嘯ゝゝ百ゝいふものわをかく行歌
ゝ也雲の縁ゝを楊ゝを烏城城行
ゝゝゝするめ城行ゝ出そぐ日よ蕊
ゝゝる白ゝの完ゝをゝゝ毎ゝをゝつて
いとゝまぐるゝ夕紅ゝ日和山ゝ西ゝて見
ゝゝゝ加賀のゝの玉緒果城を中ゝゝへの
玉門ゝ一ゝゝゝゝ

夏の雲　いのゝ城を日の雲　嘯雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入り日切り竹切籬蘇胸つけ[illegible]
[illegible]川とゝるよ[illegible]
湯[illegible]

[illegible]るゝ[illegible]の[illegible]ふ蟬そすさまじ　丈雲

水[illegible]ゝ[illegible]る也地[illegible]ちこ　駅上

西方とゝ[illegible]ふ[illegible]砂重[illegible]出せふ山[illegible]
やゝ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]て
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]る也[illegible]山を[illegible]
切ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]砂金[illegible]

加[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]泉　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　丈雲
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
須の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]酒宴会の澤八幡宮の小松のもとにて

双林寺にて

以徳院近幸のもとにめされまいりて

波よりせくに新をとひ引張よりたくに渡後の

文帝城にて[illegible]

高の浦といふに和歌入江富の高浜海岸

樵村の和歌をみる

井一の風景五寺より むらん十寺より 長沢

山よりる

琴城にて[illegible]

水上より

[illegible]

第[illegible]さる第[illegible]魚と[illegible]

胡第[illegible]

[illegible]の後八[illegible]

よりくへる事十餘町資朝中納言の戮せ

らるゝ所八幡中[illegible]

以徳院の後城[illegible]

舟より放生のひる題目の[illegible]

[illegible]

正四[illegible]

[illegible]

味基

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大樹の命にて[illegible]あり[illegible]
及び方五十間相撲[illegible]
[illegible]めらるべしとの[illegible]
御廟の相[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

時鐘も鳴[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寺つ一旦破壞すべきやうにあ[illegible]
あひ再び上觀の法[illegible]
御廟の西水をつとむさるべ[illegible]
結合[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]　　長水

[illegible]　　孤佛

[illegible]　　大雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

次の日出立まゐらんとするに金松浦山の山
陰をこゆる時より山ハ蜂の空巣はかやくく
濃りたゝ寄たるハ中ニ寒くして
水の気より雲霧深く鳴き事えもいはれ
ずこゝの名ハ鶯を聞んとめでたく
風流のよすがとなるべきなり次の日又麓へ
なりたるに行くんと行んとせしハ
浦志賀を毎日毎日ながめやうや
水の紅野と山角る時ようさつまく竭郎よ
法華経きこゆ

月かゝり清鏡の夜打ちゝ　嘯墓

ゐたりちうき紅麻仏とゐふ碑ハ高十まり
夜ハこゝを小倉亜相公ゐたりかゝ左近の墓
奥享のちゝめとよ初ゐゝを世紀ゐゝ
北ゝこの紀言寺より絶さめまりかさつき
例のゝゝ二の碑面よ

故左近人藤原氏之墓

藤原氏一舟之墓

紀海よゐる面ハ潤ゐ郎ゐ　嘯墓

業ゐるの藤ゐゐゐさゝ蔓珠沙花　弼ゐ

墜涙の碑意さよあゝ

無後ゐゝめゐゐ小方の際ゐる書日壽

月ゆき雪は待ハたゝ沖へさして出く千俵の
渡り百人の出ふなの梅の枝ふりたるうめ
紅陽湾を眺湾すたゝ高成ちゝ江を毎
絵里和湾絵とゝ絵ゝ毎成より世界に
いやすゝゝ高る毎ゆきハ急碎ゝ高より風
光の優なゝさゝ世界の美なるハ
湾美ゝ之より無きるひゝきゆゝ　嘯臺
給湾すゝゝひちゝゝ江の海とゝふなたる
すゝゝ

つゝ紅葉より江ぬゝふ鶯の聲　北水
四三百八ゝ絵ゝゝの今ゝ高るへゝ月ゝ

ゝゝより先きゝめゝ奏ゝをなゝまゝとゝたゝ
寺出るゝ蟬ゝさゝより猶もひゝけ人ゝもいゝむ
磯の湖をゝ海ゝ金沙山より沙さゝゝる根
ゝゝて明美出んとてきゝ雲もいゝもきの
ゝゝつゝむさゝとゝ面ふゝハふつゝ歩ものゝ
雪加ゝゝいゝより世ん今青の空かきゝゝ
て今を面ゝるへき風のゝゝ脇ふゝゝ
ゝゝ風をゝひ雲の明方をゆふきて
心岡す嘯ゝゝ風さゝゝゝはゝ表室軍大
きゝ月行て出すゝゝゝみる脇ひゝゝ
て身つゝゝひすゝるゝゝいふ変ふ能猶の

好人ゆゑ富士のうまれ出る事思ひ今一日を正
中の後にむかひ人々こぞりてせんすゆゑ
よる夜去る後にんとるゝ人ゆゑ
文よ数百をへくさくの師もあり形くさく
たゝくたゝく新参者ゆゑ古きまこの匂ひ
ゆゝくゆゝ白ゆる人ゆゑとりの口を知まり
ゝ鳴唄よりこの世にゆゝと知ゆゝん事也
金北山ゆゑ孔雀ゆゝ高ゝ樒くさくけり
ゝよ夜ゆゝ製ゆゑ世後寄ゆゝたゝ雲成客
事をゆゝ御ゝゝ手附ぬゝつゝたゝむけゝ
ゆゝゝの検査をゝゝゝゆゝゝゆゝ北海春

の報勢ゆゑ
実ゝの水ゆゝ
清水よりむゝゝゝすゝゝ
山裏ゝ雲ゝゝゝゝ
ゝゝゝ白ゝゝゝ
繁ゝ新ゝ
出ゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
当面山ゝ
山のゝゝ

嘯叢
和尚

杉ゝ[illegible]ゝ平り西山より風かゝる　曉臺

明墨より強をゝまて湖のみさゝ寅の湊より

やゝまてる湖上の西ゝ離れそゝりうつてはゝ

廣ゝ[illegible]ゝ水ひきさゝへゝゝゝゝゝものたゝ

つゝゝゝて鏡のゝゝの鏡ゝよわゝゝき[illegible]

のたゝ西ゝゝゝはゝゝゝゝゝ山を都より風はゝも

かゝゝく[illegible]

鶴のゝの隙なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　弘仙

魚飛てゝゝ波より月の新きは　弘上

ゝゝ青のゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

魚形をとる様にいとなみ日潮は
激しき海の中央をかぐとく波の様
なる所に漕ぎ出でる所とも師匠と
とく船唐ようち乗りぬこそは丈雲
形る男女は如ふわたる巫女必ず剛ニ
たくうめきようなる出る所とやうく
書交出はくいのうとりの毛けば様なる毒
いよくつゝ書ぬるは中央のこと形とこいって
漕わたり所ぬなくて日暮なまは
の西の毛と沒の遠く暮は出る船のいふ所
暮京とたりとくに波つゝの色染あるさは

やるとこと形あ毛ふしけまふとこと舟はあこし
波は毒一変は海へきてたくいのうしとこと
歌はたく見水船のこと弥こと所ふのうの
声弦いとくし中絲の舟ふ沙のまこうんは三ッ
連なる墨まの所とくやうん丸は後輪うなる
こと所へうこと形せやくと艇なくこをさ
けば形決とかふ所わる孫とこけまはまこと
形毛歌ふふ漁なこと毛舟の書すれりと
こすの一変りうなる成はこと関ふ抜
こも心形いくへもせすく漕出るえひすん
かこと所あ舟ふいふ抜ますあてやふ

いりたるなのやまちうにて来れん夜を日比の
彩〻彩〻も今〻彩へ部をさんかうすべ〻
とゝの事参考とゝへ系事ゝうゝ之ゝのゝりゝよ
あゝて〻漕ゝりゝうゝあゝまゝゝよ孤ゝうゝさゝよ火の二ツも
ゝゝ西ゝゝゝゝよゝゝゝゝゝゝと軒ゝゝゝゝ出ゝゝゝてゝゝりゝう
ゝ室ゝゝ小ゝゝゝの船の冒ゝゝゝゝゝ船ゝゝゝゝ陸より
ゝ人の声ゝりけゝ〻世毎ゝゝて危ゝゝ事ゝゝのゝゝゝゝ
世嵐の為ゝ基ゝゝんゝゝゝゝゝゝ霧ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ命ゝゝゝゝゝゝゝゝ

千時安永四年乙未七月淨宮

所志
千里の潮美江の花影浅潮く
ゆゆしくて海さ寄せ来りて
月下の邸に深々と月下に躍る
なの志比武杉の美麗なる
人球志く志吟歌あさ
潮子よ之愛寿の情有

かれ枯なる、こゝ句こうべや一茶の
宴筵う毒毒市僧こゝ蘆中より
毒蛇毛人手魚手

三月七丁未、反蕾菊菴

懐蕾出

[illegible]陽毒筵率丁[illegible]里の時筵すこむるより
やうく枝の蕾切り呉ゆひうたあゆすつ
門出の蕾まつ屋こゝ蕾こゝ

花より毒を[illegible]毒[illegible]桂　二月廿日　蕾芝

おのくふたるうたる梅白紀とゆふを毒花
すをたうを数ゆ月筵よたゆ月ひすまる
ちくくちかゆ所ちく高くゆゆを望
きもすすちちをみちうき筆
けゆ月ゆうけんと月ひちる三日筆つゆひ
ちすつき事を詠く次

風のまの沖の汐のひるまもなくよせかへりつゝ
つゝ[illegible]海中を[illegible]島嶼にわかれる海生の
[illegible]
雲霧[illegible]
須磨潟
[illegible]
[illegible]
[illegible]

高野の人の行ふ
龍の名所を霧日の[illegible]大和の奥をつ
[illegible]八龍のやうに成おもへとはた先[illegible]
又高[illegible]に[illegible]たち[illegible]
雛波よりつゝひ[illegible]日[illegible]の濁よ[illegible]
紀伊の国よりわたりく毎年雲海の縁
[illegible]む
わ[illegible]八女ヶ浦苔撮結やむ〳〵雛
吹上のうつ〳〵ひし〳〵
吹井うつゝ高風ふ〳〵[illegible]の中

紀の川八[illegible]と金の[illegible]より生るよ
[illegible]
龍吟ひよ紀の川の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]奥屋[illegible]入る[illegible]
[illegible]八[illegible]人語
[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]時

女人堂

雲のなつかしく思うん女人　雲

細腰の美人風よりもいとゝ面白やせゝらぎ

語ん夕すゝ世沢あらうめわりひかゝ

日影をこれ海ゝ海よりつやゝゝゝゝ

清ゝもりなりかる日よ

たゝふたりまた雲伝田の海水

ゝゝゝゝゝ海ゝ海ゝ陽ゝ雲ゝ世のゝ

のゝゝふゝゝを海ゝふ風ゝもゝゝゝすゝゝ

夏のゝゝめゝゝゝゝぬ海や奥行る山の

すゝゝゝ名ゝゝゝゝ新ゝゝ系ゝりの

空なつゝゝゝ細無の遠方古我の俳ゝ船

呉国春の幻刹ゝ海ゝ多の春の色ゝよ分入

呉美人のたゝゝゝゝ春ゝゝ田ゝひ雅情急雲

郎の一声ゝ春

郎ゝゝ郎ゝよゝ雲伝世ゝ

古水流ゝ海ゝひてゝゝ伝春の水海を海ゝ

むゝ文むゝ夏ゝ夜ゝ坊ゝ春

海郎流郎ゝゝ船ゝ行ゝ古ゝ雲ゝかの

清ゝゝゝゝゝゝ春海春ゝひさゝかゝ海

の扉ゝゝ計ゝ行ゝ明ゝ春ゝひゝりのひゝり

世住ゝ海ゝ海ゝ春ゝ春ゝゝゝ立ゝゝゝ

海の芳ゝ伝ゝ春ゝゝゝゝゝゝゝゝ竹の

[illegible]芳野山居集とう題せる
[illegible]の和尚詩をものし給ふ之とつの
冊子あたへらるゝ[illegible]を[illegible]へる
[illegible]のさまかんこうかる[illegible]
[illegible]のうさよりいとゝやすゝ[illegible]
清[illegible]吟[illegible]詩[illegible]去
[illegible]

[illegible]命とゝくの苦清水
[illegible]山路[illegible]
[illegible]穂麦[illegible]

[illegible]の[illegible]
南[illegible]
[illegible]
[illegible]

筆は小藤こそをまつも裏の山

花の雪はなふ井手の浦りるて宮居の里よ
出るふ以八夕八雪の雪はつ橋の小高の
色を物の匂や花の わさうこそ春八梅豆の
こゝろ〳〵ゆめ

橋もるのつゝ枝こそ時水鶯
和月貴あ中も枝の雪とりへかへるのゆて
高きこゝ色里地よ新勇城や春ふ
ゆ系

月待淺所ゆ〳〵年の雪
小山よ枝城ひ言寂光院よ立雪り侍るふ

あ中よ雪を居雪の出年りゝ古きゝ〳〵
加ゝ中小中雪八池の汀のたゝすひ中て
文よ女院の御行りさ海双駕ようかゝていか
ゆをゝ絵流むゝさ清澤の池醤し橋かな
小雪城捨ゝふ雪るたゝ雪以の雪

月待夜や薄城のゆる蝶の長
大原女里移流ゝ尋移人りゝかの在中將の
雪城ゝゝひ〳〵雪のゝ色さをひとゝたゆゝ
中ゝ惟喬法ゝの古廟城清水
和の花の雪橋ゝ踏ゝすゝる鳳
高砂の尾

夏百日詣りの滝より耳搔んと
矢賀坂越えよかくるまくと台廟よりの道を二路
のうたくるめるまて
帷子の関よりつゝ見えよりの利る
夜の月をもや横川の杉の木末より漏くるを
心蓮堂の庭より笠うちぬぎ一日の苦熱を
忘るゝひとゝ日面後の雲快く晴わたり
いとゝとく鞍を書へ乗りて待る俗の号く
いとのをよりつくとせんすをみくるうう
しく夜船川より出るを黄昏を
古へ魂を義と書り出るの雲

端午
ものくもや藤みしゝ松を結ん
梅津のつゝの堤をひよ西の道遥五歩より
慧ひ十歩より行す
撫子の花をよすえむ風情
小渡瀬
芝刈や麻よりつゝ渡瀬の所
既よ雲をよりつゝこのをとたくくしたまへ
やうゝ波立寺の禁より出くやとり縄をとむ
夜情夜よりくてて泥むうとゝ
落月夜四面より舟の蓋業

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寓居

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊豫の国松山の紫芝大和の
玉めぐりふたたび訪ふ時
のうたとりすがりて出集
日記やうのものの後にまよひ
ぬしなくすくすくしく
[illegible]八
神ぞよんん清き吾妻の蚕之編の城　曉雲
月八日明月の書の夜　紫芝
[illegible]風よ石を撫みて　仲央
大和なんと繰くく割々や　佳棠
[illegible]山の[illegible]　芝

眼よりもたちうちそへる明星　蓼
ひのもとまもりつくしの笛の音に　棠
興ありすかの秋のつけ　央
月うけて雲の彼方ん伊勢の私　蓼
寄せし幕を　宮もう　扶　芝
独居の名を残せる郷　て　央
一日ちかき雲のひかりあり　棠
緑の絹の綿うつ富の蘆　小字　芝
故郷帰りたる意ハちりまてり　蓼
ちりて実ハ境のうりの蘇ちや　棠
正月たちまち人のまつりさ　央

里の花蚕稚ひのたくむとりよ　蓼
ちる紅橋遠る山ひの　芝
旅立ひのちくの秋ひく酒の我茶　央
月城はむかしきを地をきなる垂　棠
書拾く語ひ　芝
水とりて身て去る川ひ　蓼
紛ふ面をたてやあよ結ふん　棠
唯見ものうへ城ふさ　央
菜釜ふる絵三山の松の風　蓼
聴まる松耳　芝
螺貝も碎ケよく吹戦まよ　央

[illegible] 繁茂 堂
副車 押[illegible] 芝
功徳池 魚[illegible] 蓋
爰[illegible] 鬼[illegible] 堂
[illegible] 央
[illegible] 蓋
日の西[illegible] 芝
[illegible] 央
扇[illegible] 揚る 柳の風 堂

名残

藪[illegible] 平安 葉更

[illegible] 猫の[illegible] 声 仰央
柳[illegible] 百池
[illegible] 佳堂
[illegible] 東湖
[illegible] 在京 親風
夜の月[illegible] 明牟

海涙

[illegible] 鮒 割[illegible] 桃縣
[illegible] 半ニハ 半桂
海[illegible] 兄
[illegible] 大津 驍道

侍立

我たひらかたらもむよもすがら
雪のうへにはけうりつすちはらから
ものすさまじかりたる海の月影
月影やふてしたなりしかし
日はかよ入くるとき人
夕影や苔のこるる花の夢

文通

秋の風のはくも高き月影
花ひらくとき入るまの杜鵑
かんたるる色坂の杉よりかな

平安 几董
越後白根 丈和
、袁鈞
、崚湖
加加久 元室
仙臺 仮宮
名古屋 士朗
万岱
岱青

羅城
閑色
多宋
亜海
紀郎
東壺
桂之
五周
純風
沙漠
岳輅

ゆりあはれへ八きたる時
此物や菓の弁ふ月夜さ
ゆ月夜や三ものたる形さ夕
意猫よりも明の月のかつらり
うつひすの歯墨ものこ所
胡蝶よりも粉のこ
涼しさや寄る時のこ
木の雪すりあつ
さし踊りつの月影よ
さつ蛙ゆ〳〵空
人の家の裏うら出の山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まこのうるはしうるはしく枝の花ばな
枝枝時彼の時と清く高き
人間の知の深うるはしく雪の間よ
淑業成ること嘉の善よ
夏の枝色えうるはしく業人この五月
いたりてうるはしく出るあるはし
大和撫子の如くうるはしたまふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百紙

[illegible]

月見

[illegible]

白図

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の皮　堀
[illegible]　毛
[illegible]　水
人の[illegible]　[illegible]
[illegible]の穂の[illegible]　[illegible]
[illegible]　苔
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　毛
[illegible]の[illegible]の[illegible]　毛
[illegible]　岡
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　水

[illegible]つ[illegible]の[illegible]　堀
[illegible]　苔
[illegible]の[illegible]の[illegible]　岡
[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]　苔
[illegible]の[illegible]の[illegible]　堀
[illegible]の[illegible]の[illegible]　水
[illegible]の[illegible]の[illegible]　毛
[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]　岡
[illegible]　苔

白図　五　　曉臺　五
岱青　五　　羅城　五
蘭水　五　　間毛　五
士朗　五　　洝茅　一

子唐　　岱青
古洝　紀風
入素　曉臺
青　洝
風　素
臺

[illegible]つのみとハ[illegible]
[illegible]なる[illegible]月のひろ　青
[illegible]宵[illegible]や[illegible]ぬ　朗
[illegible]ま[illegible]の[illegible]　風
[illegible]の[illegible]六角因幡堂　素
[illegible]の[illegible]ま[illegible]　蓋
[illegible]ハ[illegible]　青
[illegible]ぬ　朗
[illegible]　風
[illegible]　素
[illegible]　蓋
[illegible]　青

蟬蛸生るこのこの[illegible]の[illegible]　朗
[illegible]て[illegible]の[illegible]　風
[illegible]の[illegible]の[illegible]　素
[illegible]の[illegible]の[illegible]　蓋
[illegible]の[illegible]　青
[illegible]の[illegible]　朗
[illegible]の[illegible]　風
[illegible]の[illegible]　素
[illegible]の[illegible]　蓋
[illegible]の[illegible]　青
[illegible]の[illegible]　朗

[illegible]の塚の見ふる面影よ　風素

[illegible]送るこちの美子　素堂

ものうとく紅の新やかたん　[illegible]

さもひ烏帽子のとり[illegible]り　[illegible]

岱青　八　士朗　七

紀鳳　七　入素　七

暁臺　七

花鑒

花ふり人皆見よ井よ　羅城

うけもつ〳〵と蟬鳴の声　菜水

蓼の淀芋たく煙ながめて　間毛

井川も〆も垣根倒るゝ　梵谷

所〳〵月代定めぬ雲の面　士朗

角よかつまする蓼の廉　孤丈

[illegible]く[illegible]の風　白図

[illegible]わるしき沸和云　睡臺

銀の蓼よりを湯くさせ　水

つゝ上たる汁の海松房　塚

和うの宿より志坊と言へつ　分
竟の言葉に送るあうつき　毛
我もとのくに拍子乗音楽　丈
ふ影楊よりうるきたちうき　湖
芋植ゑをに入る礼をう　碁
鉢を注く描抱く寝る　図
書の月つ手たに風う人に　墨
帝あさ星のりぬけ　水
水う手新面をる弟けで　毛
絞ひ云ふ支婦八十　分
三ツ鍵ゑふより絞ふつけぐて　湖

枕のをとよりちうき志ふ　丈
袈裟裂くまの傍を隆寄り　図
笑へるを血のをを拭くうる　碁
志の手外平の厳羊の蘭て　水
ををひ青牛より言ふ　墨
何とやあの云多き人の後　分
ゐををかりのるうて海鉢　毛
井川の月ずり明く寄の杉　丈
笠をかへる風根の橋朱　湖
方の杉海土を添る打をを　碁
をて家鉢さ風の海を　図

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

羅城	五	蘭水	五
間毛	五	楚分	五
士朗	四	珉丈	五
白岡	四	曉蓋	四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

如輕
芝
蓋
堞
如
格
芝
蓋
堞
如
格
芝
蓋
堞
如
格

風中の糸竹人の[illegible]かまりて
[illegible]城名高き新のむつり　[illegible]　塔
[illegible]　[illegible]　[illegible]　

西山の秋の夕せうけく素の面　紀風

雲の月出ぬうちの薄月夜　掛生（ヲカケキ）

うつひとの袖にぬるる秋の露　曉蓋

枝をさす橘世の栄の木の末か　素洲（ヲカケキ）

とかくとやつ紙焚山や初雪の月　社尹（チタ）

ふるの神の霜をうつす意　稲城

人見く浦山の乱れ咲たりけり　鶴六

朝うしろ分出る霜の葉りか　蔑兎（チタ）

物ひとりたく素の日に万うせたり　可有

正月十三日伊勢の為に祈る

御子の神事をとる

素風やをうく酒の御子ゆうら　古明

素稱よ山路のつもれまたり　曉蓋

水無田やをうく道ふる素の人　呼道

りまを拾ひぬ人を拾ひたり　圃曉

白うをや素の拾ひ夕ふるめ　一声

雪よ雪のうつりやまうすき　文明

素鉢ゝ明出せるを　曉の声　七人

神鏡や栗粒やをの鼻柱　祖乃

入素

夏

りをうたるるうたれを蛍か　万岱

初雲のもゝとゝ隆人村の系　　イヨ　紫芝
夏の夜話ともひろけたる茅の上　　蕃水

西上人の枯野の芒うたゝみて
見るもと絵もしゝ実宜壊の芒哉
ゝちのゝ人の苅取ゝ第り哉
活もせゝ送り迎り来る
明つゝゝも寒紀ゝの芒哉　　士朗
夕ゝ高湖の水ゝうたゝき　　昆明
虚空やなゝの絵の端午　　閏毛
かゝるゝ二百月入る西の系　　孤丈
仲のよやゝ一夜ゝ八重薄　　嘯蓋

ゝゝめ入まゝ八やゝゝ聴ゝゝ芒原　　寒炎
日ゝ手紙南てゝゝゝめんけゝゝ毛　　苔蹊
夜の秋の絵ゝたゝゝ明ゝたゝ　　羅城
海業養ゝゝゝと芒の蓋　　チヲ　台冲
美仲のゝゝゝゝゝ月ゝ　　ヨカサキ　卓池
声ゝゝゝ人ゝと世の命ゝ紀　　嘯蓋
ゝゝつゝゝ貴川へゝたゝまゝ　　チヲ　扇洲
風月ゝゝゝゝ芒の下世四ゝ系　　越鳥
三輪のゝゝゝ紙ゝゝて
郭公鳥八時ゝと山のゝく　　士朗
夢ゝゝゝゝゝ雲紙垂ゝひ　　岳洛

蚤法師ふこゝ後世の事を
魍うちの[illegible]
[illegible]魚[illegible]
剃髪[illegible]の[illegible]
[illegible]
平相国信長公の二百年よ発[illegible]
[illegible]
総見寺[illegible]
[illegible]
つ[illegible]
けふの法[illegible]

曉蓋
桂五
白岡
沙莫

曉蓋

相親[illegible]
わ[illegible]
夕[illegible]
長良川[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

平安
砂史
楚石
代書

他即
沂風
北橋
白岡
北風

秋

枯くさ　士朔
いなづまの　羅城
四方やとのよりもぬるゝ　大年
いつ田より　岳格
満月や　常格
水すまの　子東
ちるはいつ　嘯蓋
わらぶき屋　呂岱
雲ゝの　貝山
秋風や　耕魚
月ひとつ

すゝきや　鈍平
雲ゝ　士雄
月見ゝ　嘯蓋
夕涼の　間毛
陣やうつたてゝ　荷菓
蜻蛉の　罠蟹
古ぢとに　桃江
秋の月　木人
ちりぬるを　仏尼
つゝ　宇交
神の業の　聖吳

朝ぼらけの霧高くなる山ぶしの
杉六

嬉しうもこの隙をぬすみ月
囲嶋

うすき雲の間むらさきの月
万丈

橋芒のうすき霧の
魯浪

霧のまうちの嶺の雨
亀年

ふさうしやそこ生たる藤和葉
岱青

鳴あるしの独の中も山おろし
紀風

燒栗や梅のうへふる墨の煙
沙莫

切株や傾よりのぶる伊香の山
昆明

竹うつしなる夕雲の立ちそふ
稲城

庵秋の二の橋うり巳月家

八月の雪ふりしやゆゑの声
猴丈

まつ立ちし松ぞ高の灯ハ細
士朗

山雪の降りしハ蘇のわすれ
曉蓋

雪ぞ八重ひしへハ人ぬ小菊
白卜

ゆく

ゆく春なしやハ伊吹ふりし
亜満

春霞四月八日雨降しし水落
曉蓋

たちそう紙をたく月雪と泰ふり
蓋水

ゆく春ぞ山ぶしの墓ぞ
東壷

いろくのゆくしやゆくの雲
少如

炭うりよの雪ふる崩すや丹波山　計之
雪ふかし紙漉かく海士の分宿　大阜
雪のふる新酒ぬけんと思せたつ時雨　羅城
雪たく宿の伊勢ものがたり　素洲
枯野の鹿ふるく月よ雪も消　チタ呂宙
雪ふる日も蟹逢けつる蔦の蘿　子繩
むつまじう行や枯野のひとつ家　支朗
雪ふる〳〵海の日となる　夕波
鳴む雪うけ〳〵ふる〳〵れ　梦香
雪ふる〳〵ふる枯柳と知りよりう　呼竜
嘯の雪ふるつらや年〳〵ふり　伊青

雪の日やいつもふる雨の夕ぬうり　素角
雪の降ぬ人〳〵は訪　まさく

雪ふる寺ふる乳ぬる湯のすゝぎ口　餘文
降雪よ雪ふるけれるゆふ合ふ　四光
ふる雨〳〵ふる枯ふる合ふ　眠情
雨の〳〵ひの雨ふる枯ふ何雪の朔　宇尺
さゝ山や夕日ふるかふ所射ふ雨　沂風
物よ佛ふよ十枚ふ南　独吳
冬日新鶏の待ひよ〳〵ぬし　入素
菓の花よ雪菓の極かふふ　桐門

降雪の中よりさゝやかなる戸屋

枯たるうと艶たるけいの初ゝ毛　平安　桃睡

うち割ゝ拾たるとゝ雪の宿　卓池

一ゝとゝ思ゝゝゝゝゝ幸を待ゝり　梅生

閭毛

文明八戊申猟月

蕉翁両度庵世の俳諧をひ弘めんと

三七年梅柳ゝとけ初るゝ

ゝゝゝもの忘しゝ　路分人堂

なゝり勇ゝゝ志乃ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝ茂茅園の庭雅想みゝ

七部を集あまねく世の宝

なゝゝゝ是作蕉翁ゝゝいゝん

5500

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文政十二[illegible]

[illegible]の秋

[illegible]

亮初ノ下十七